
2023年2月期第3四半期決算

<参考資料>

2022年 12月27日

くらしの「あたらしい幸せ」を発明する。



J. FRONT RETAILING

<3Q連結決算（9-11月）サマリ>

- ◆ 事業毎の回復状況に差はあるが、年度業績計画に沿って進捗
- ◆ 主に、百貨店事業の売上高が順調に回復したことから増収
- ◆ 変動費、投資費用などコスト増も増収効果で増益

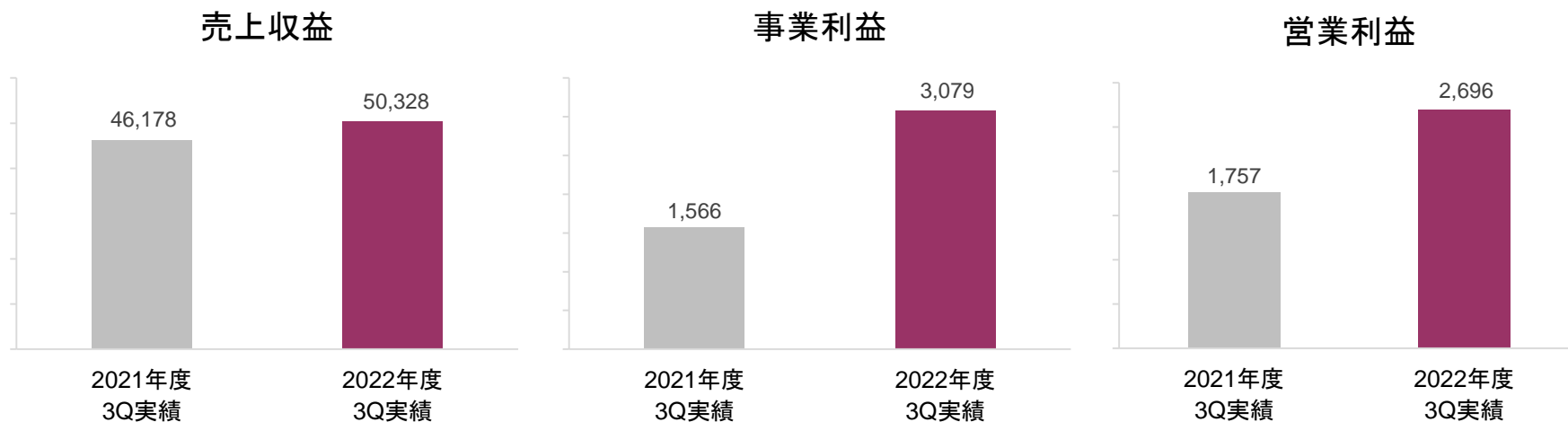
- ▶ 主に百貨店事業の国内売上、免税売上の回復効果により増収
- ▶ 手数料や水道光熱費などの変動費、投資費用などコスト増も増益
- ▶ 四半期利益は前年の税金費用減（△21億円）の反動により減益

(単位：百万円、%)

2023年2月期	3Q (9-11月度)			3Q累計 (3-11月度)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	245,337	26,512	12.1	709,468	93,298	15.1
売上収益	87,811	7,665	9.6	256,941	19,462	8.2
売上総利益	42,384	4,160	10.9	125,245	17,327	16.1
販売管理費	35,354	2,359	7.1	104,586	5,552	5.6
事業利益	7,029	1,801	34.5	20,659	11,776	132.6
その他の営業収益	438	△892	△67.0	2,758	△229	△7.7
その他の営業費用	605	△157	△20.6	3,317	△4,146	△55.6
営業利益	6,862	1,066	18.4	20,100	15,693	356.1
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	4,606	△1,059	△18.7	14,762	11,093	302.3

セグメント業績 ①百貨店事業 (IFRS)

- ▶ ラグジュアリー等の改装効果、入店客数の回復もあり、売上は順調に回復
- ▶ 手数料や宣伝費、投資関連費用などコスト増加も、事業利益は増益
- ▶ 前年の休業協力金計上(3億円)の反動あるも、営業利益も増益



(単位:百万円、%)

2023年2月期 第3四半期	3Q(9-11月)			3Q累計(3-11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	158,993	17,636	12.5	464,233	75,125	19.3
売上収益	50,328	4,150	9.0	151,938	19,276	14.5
販売管理費	29,795	1,595	5.7	88,205	5,936	7.2
事業利益	3,079	1,513	96.7	8,810	8,752	—
営業利益	2,696	939	53.4	6,509	9,318	—

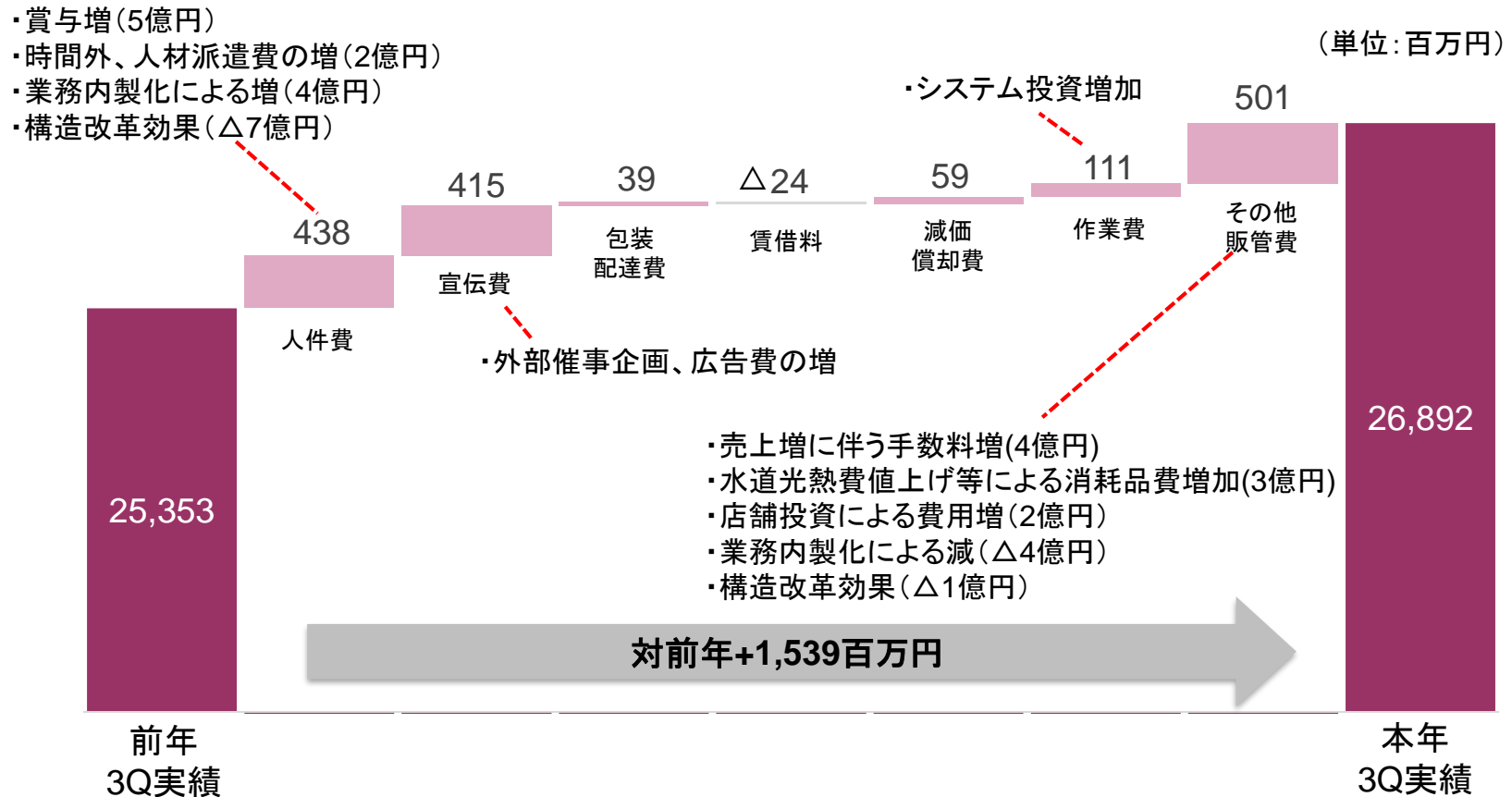
- ▶ ラグジュアリー堅調な神戸、心齋橋中心に10月予想比で順調に推移
- ▶ ターミナル店舗は人流回復等により、緩やかながらも回復速度が向上
- ▶ 対19年度比で国内売上△2.3%、免税売上△60.5%まで回復

(増減率、%)

2023年2月期 3Q(9-11月)	対前年比較		2019年度比較	
	実績	予想	実績	予想
心齋橋店	26.2	17.5	△13.6	△19.6
梅田店	10.0	7.7	△21.8	△23.4
東京店	25.5	16.3	△16.2	△22.4
京都店	14.4	10.6	△7.0	△10.1
神戸店	9.3	5.6	9.8	6.0
札幌店	15.9	13.2	△1.8	△4.1
名古屋店	11.1	9.5	△1.9	△3.3
直営店合計(既存店)	13.5	9.7	△7.7	△10.7
除く免税売上	9.9	7.1	△2.3	△5.0
免税売上	518.6	386.8	△60.5	△68.9

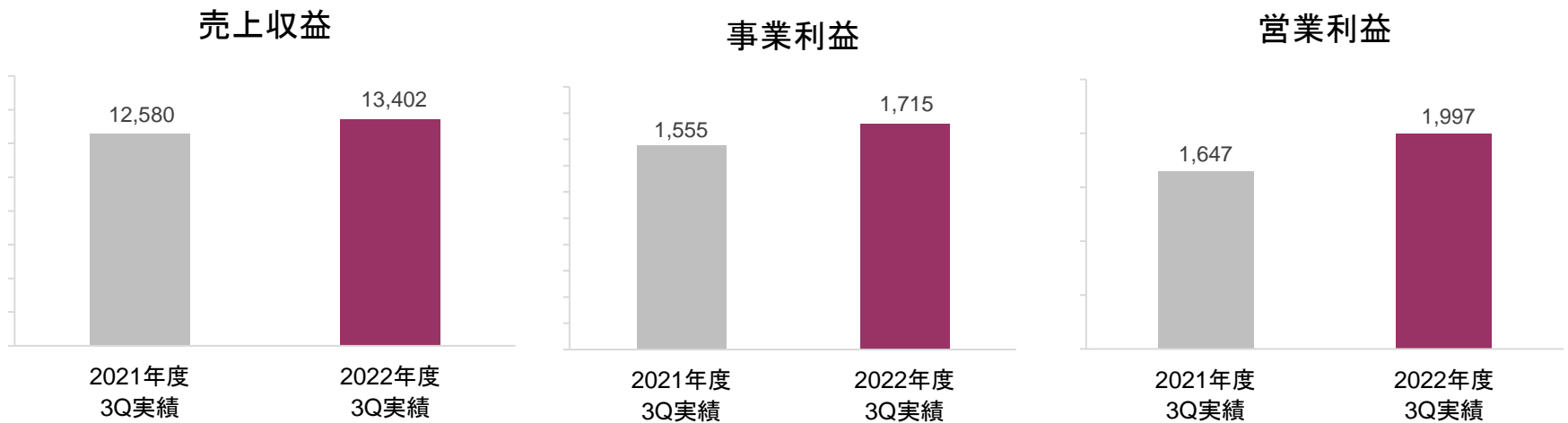
※直営店合計は法人・本社除く、対前年比較では豊田店、2019年度比較では山科店、下関店、豊田店実績を除く

- ▶ 主な増加要因は、業績回復に伴う人件費や手数料、外部催事企画等の宣伝費に加え、水道光熱費の高騰、投資関連等の費用増など+26億円
- ▶ 構造改革効果は人件費や業務委託見直し、賃借物件返却等で△9億円



セグメント業績 ②SC事業 (IFRS)

- ▶ 回復ペースは緩やかも、各店の改装効果やプロモーション強化などで増収
- ▶ 水道光熱費等が増加するも、事業利益、営業利益は増益
- ▶ 条件緩和は3Q累計で15億円解消、今期18億円の解消見通し



(単位: 百万円、%)

2023年2月期 第3四半期	3Q(9-11月)			3Q累計(3-11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	62,908	7,380	13.3	182,751	24,243	15.3
売上収益	13,402	822	6.5	40,057	712	1.8
販売管理費	2,031	174	9.3	5,893	△1,283	△17.9
事業利益	1,715	160	10.3	5,721	1,444	33.8
営業利益	1,997	350	21.2	6,858	4,754	226.0

PARCO 主要店舗別テナント取扱高実績

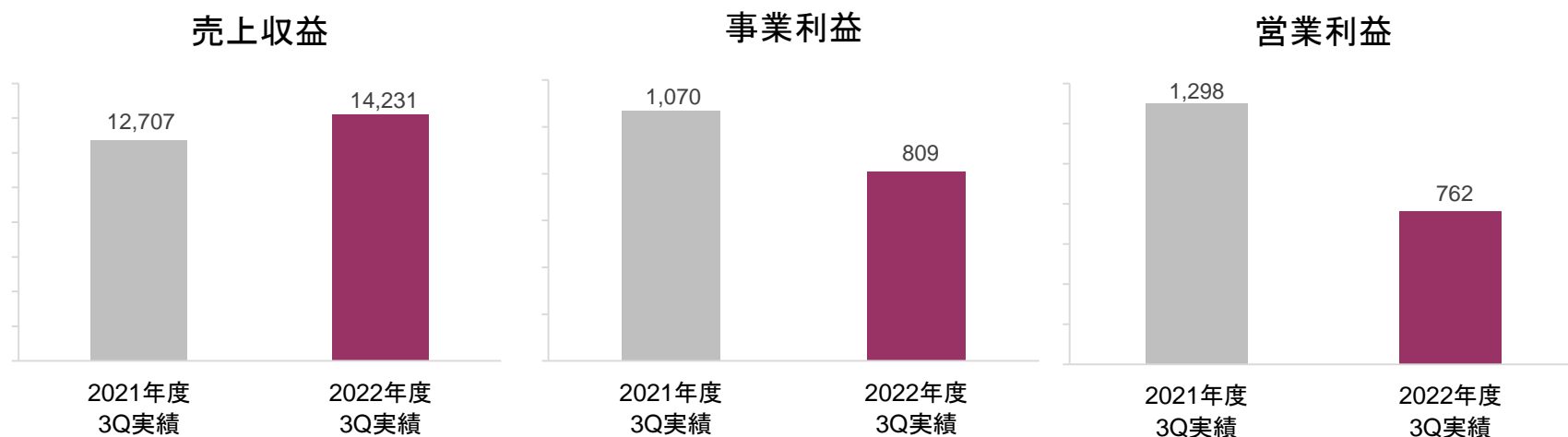
- ▶ 渋谷・心齋橋PARCOは好調持続、直近では免税取扱高も伸張
- ▶ 池袋・名古屋PARCOは改装効果もあり、3Qは計画比並みに回復
- ▶ 仙台・広島PARCOなど地方都市店舗の回復ペースは依然緩やか

(増減率、%)

2023年2月期	対前年比較			2019年度比較		
	1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q
仙台PARCO	25.7	17.0	13.6	△19.7	△16.0	△9.1
浦和PARCO	4.9	12.3	10.4	△9.6	△6.6	△5.3
池袋PARCO	47.0	24.2	26.2	△28.4	△25.5	△16.5
渋谷PARCO	62.6	21.2	25.3	—	—	—
調布PARCO	25.5	15.2	9.3	△11.6	△5.1	△5.3
名古屋PARCO	18.0	13.1	18.1	△26.5	△22.4	△18.9
心齋橋PARCO	56.7	13.0	22.1	—	—	—
広島PARCO	13.8	16.2	3.2	△26.2	△19.9	△18.9
福岡PARCO	11.5	13.4	13.5	△21.1	△19.8	△3.9
全店合計	21.3	14.4	13.4	△11.1	△5.3	△0.6
既存店合計	21.3	14.4	13.4	△21.7	△18.1	△13.1

※既存店：2019年度比較では渋谷PARCO、心齋橋PARCO、宇都宮PARCO、熊本PARCOの実績を除く

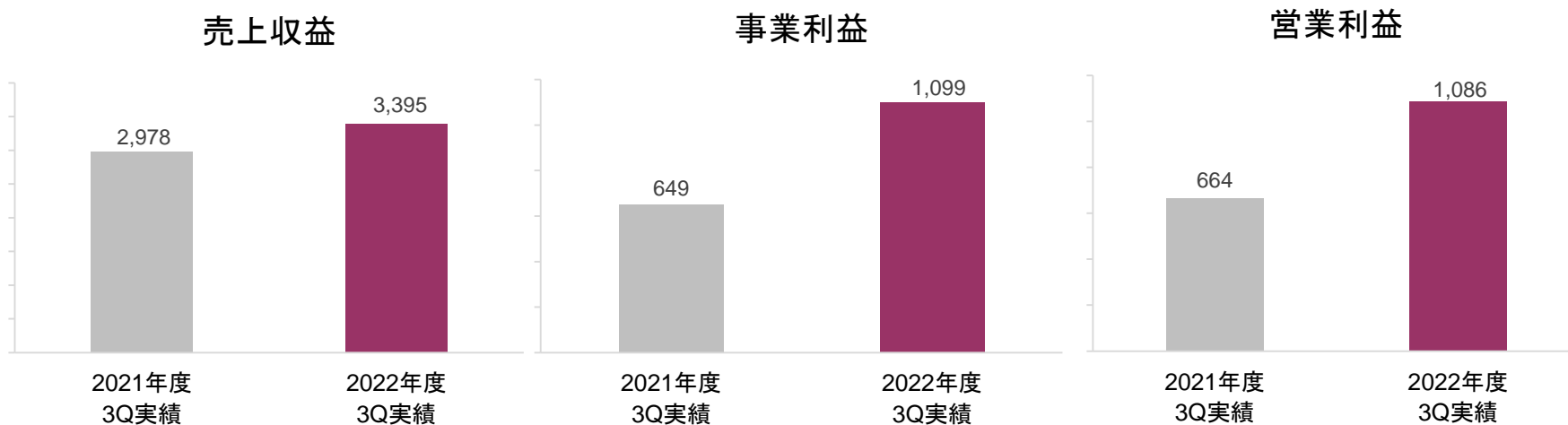
- ▶ J.フロント建装の百貨店改装工事に伴う工事受注増により増収
- ▶ 道頓堀ZG終了、前年の固定資産売却益の反動等で減益も、計画通り進捗
- ▶ 名古屋、心齋橋での開発に加え、今後、福岡天神エリアでの計画検討



(単位:百万円、%)

2023年2月期 第3四半期	3Q(9-11月)			3Q累計(3-11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	14,231	1,533	12.1	40,053	△1,552	△3.7
売上収益	14,231	1,524	12.0	40,053	1,608	4.2
販売管理費	1,686	123	7.9	4,869	4	0.1
事業利益	809	△261	△24.4	2,361	△436	△15.6
営業利益	762	△536	△41.3	2,549	△557	△17.9

- ▶ 年会費増、百貨店・外部加盟店の取扱高回復などが寄与し増収
- ▶ アクワイアリングやシステム投資に伴う費用増も、事業利益、営業利益はともに増益

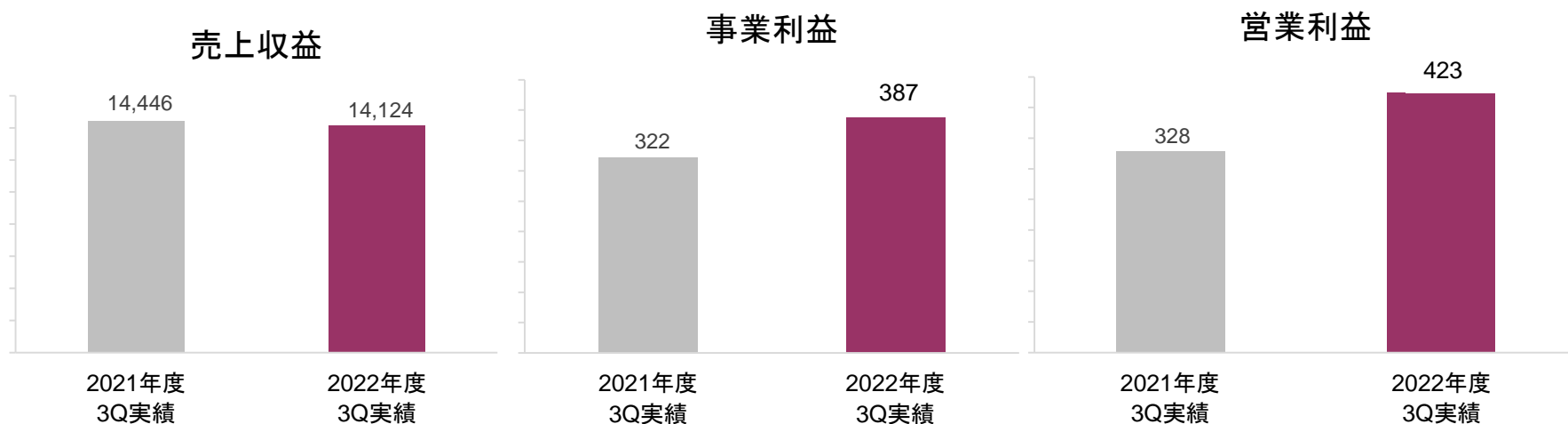


(単位: 百万円、%)

2023年2月期 第3四半期	3Q(9-11月)			3Q累計(3-11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	3,395	417	14.0	9,709	1,778	22.4
売上収益	3,395	417	14.0	9,709	1,778	22.4
販売管理費	2,295	△34	△1.4	6,778	△28	△0.4
事業利益	1,099	450	69.3	2,931	1,806	160.4
営業利益	1,086	422	63.4	2,940	1,769	150.9

セグメント業績 ⑤その他 (IFRS)

- ▶ ディンプル連結除外影響で減収、卸売業(大丸興業)は自動車部門が好調
- ▶ 販管費はディンプル影響で△4億円減、その他各社でもコスト抑制
- ▶ 卸売業の増収効果により増益継続



(単位:百万円、%)

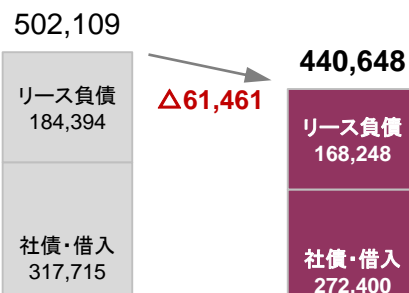
2023年2月期 第3四半期	3Q(9-11月)			3Q累計(3-11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	14,464	△1,502	△9.4	41,856	△6,779	△13.9
売上収益	14,124	△322	△2.2	40,802	△5,102	△11.1
販売管理費	4,559	△480	△9.5	14,846	△1,109	△7.0
事業利益	387	65	20.4	1,037	223	27.3
営業利益	423	95	29.1	1,193	426	55.4

- ▶ 資産合計は現預金残高の圧縮などにより、対前期末△251億円減少
- ▶ 有利子負債は社債、借入金の返済などにより、対前期末△614億円減少
- ▶ 親会社の所有者に帰属する持分は、対前期末＋74億円増加

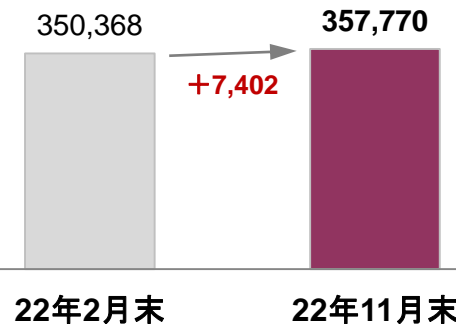
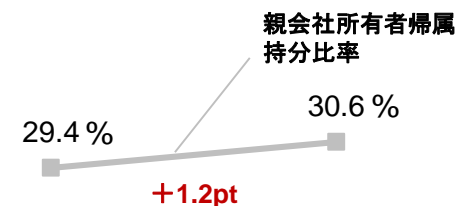
資産合計



有利子負債



親会社の所有者に帰属する持分



22年2月末

22年11月末

22年2月末

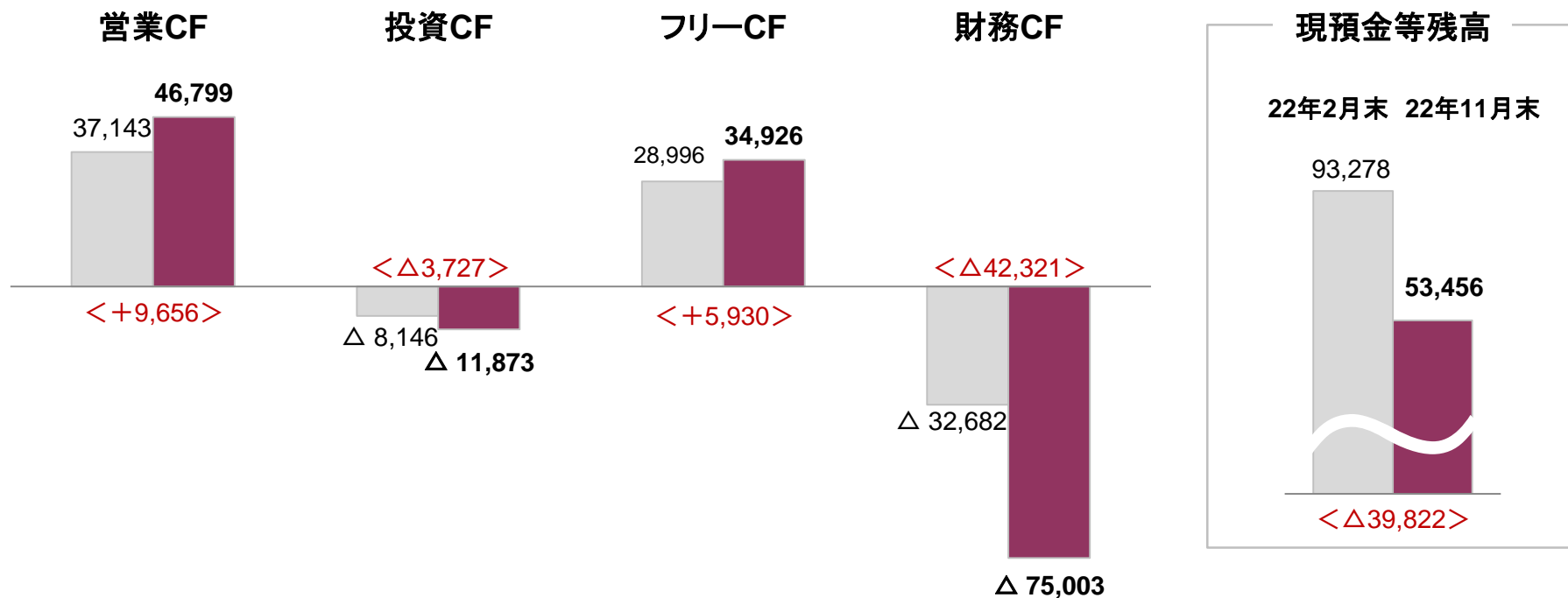
22年11月末

22年2月末

22年11月末

連結CF（IFRS、3-11月）

- ▶ 営業CFは利益回復が寄与し467億円の収入
- ▶ 投資CFは店舗改装、デジタル投資を実施したことなどにより△118億円の支出
- ▶ 財務CFは現預金を圧縮するため、有利子負債返済を進め△750億円の支出



< > 内対前年増減高

(単位:百万円)

■ 22年2月期3Q累計 ■ 23年2月期3Q累計

Website

<https://www.j-front-retailing.com>

くらしの
「あたらしい幸せ」を
発明する。



J. FRONT RETAILING

本資料における業績予測や将来の予測に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されております。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は、見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。